

国立ハンセン病資料館年報

第3号 平成21(2009)年度

国立ハンセン病資料館

目次

目的・理念・機能	4
沿革	6
施設概要	9
I 教育啓発機能	12
1 団体見学対応	
2 語り部活動・講義	
3 シンポジウム・講演会等の開催	
4 資料の貸出	
5 刊行物	
II 展示機能	22
1 常設展示	
2 企画展示	
III 収集保存機能	31
1 資料の収集	
2 収蔵資料の保管	
IV 調査研究機能	34
1 収蔵資料に関する調査	
2 企画展示に伴う調査	
3 ハンセン病・博物館に関する調査研究	
V 情報センター機能	37
1 公式ホームページの運用	
2 図書室について	
VI 管理・サービス機能	39
1 国立ハンセン病資料館管理運営規程	
2 組織	
3 事業費管理	
4 来館者票記入・アンケートの実施	
5 施設貸出	
VII 企画調整機能	45
1 運営企画検討会・運営委員会	
2 広報活動	
3 博物館施設等との連携	
平成21(2009)年度 利用状況	47
利用案内	

目的・理念・機能

【目的】

「ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話」、「ハンセン病療養所等に関する補償金の支給等に関する法律」前文及び第11条（名誉の回復等）、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」第18条（名誉の回復及び死没者の追悼）に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消及び患者・元患者の名誉回復を図ります。

【理念】

- ・ハンセン病に関する知識の普及や理解の促進に努めます。
- ・ハンセン病にまつわる偏見や差別、排除の解消に努めます。
- ・ハンセン病に対する、古代以来の長年にわたる偏見・差別、とりわけ誤った隔離政策の歴史に学び、苦難や被害を被った人々の体験と、これらに立ち向かった姿を示します。
- ・ハンセン病にまつわる苦難や被害を被った人々の名誉回復を目指し、人権尊重の精神を養うことに努めます。
- ・ハンセン病にまつわる苦難や被害を被った人々と社会との共生の実現に努めます。

【求められる資料館像】

- ・普及啓発の拠点
ハンセン病に関する中核施設として、各療養所と連携を図りながら、ハンセン病についての医学的知識、治療の歴史、患者・元患者に対する偏見・差別の歴史、その苦難の体験についての情報を社会に示し、ハンセン病への理解を促進します。そして、それをもとに来館者が人権等の問題について考える場を提供します。
- ・情報の拠点
ハンセン病に関するあらゆる情報を受信・集積し、後世に継承するとともに、同様の取り組みを実施している国内外の関連組織との連携を図り、広く世界へ発信します。
- ・交流の拠点
資料館において語り部や患者・元患者との交流を促進します。

【機能】

- 1 教育啓発機能
…資料の収集保存や調査研究活動等によって得られた成果を、教育啓発を通じて一般に示し、ハンセン病に関する理解促進と偏見・差別・排除の解消を目指します。
- 2 展示機能
…教育啓発機能と同様に、資料を収集保存し調査研究活動を行い、その結果得られた成果を展示を通じて公開し、ハンセン病に関する理解促進と偏見・差別・排除の解消を目指します。
- 3 収集保存機能
…資料の散逸を防ぎ、適切な形で後世に継承するため、ハンセン病に関わる資料を収集、保存します。
- 4 調査研究機能
…ハンセン病に関わるさまざまな調査研究を行い、教育啓発や展示活動等、資料館活動に有効なものとしします。
- 5 情報センター機能
…ハンセン病に関わる情報の受発信と集積を行うとともに、全国の関連機関との連携を図ります。
- 6 管理・サービス機能
…円滑な資料館運営を行うとともに、利用者の利便性を図る活動を実施します。
- 7 企画調整機能
…館内の各活動を行うための連絡調整や、全国の関連機関との連携促進、資料館の存在・その意義を認知させるための活動を行います。



I 教育啓発機能

1 団体見学対応

事前予約をして見学に来館する団体来館者に対しては、プログラムを用意して対応した（全来館者 21,881 人中 8,231 人）。主な対応団体は看護学校、小中学校、高等学校、教員、教育委員会、自治体の研修、多磨全生園への訪問団体、宗教団体等であった。予約は 10 人以上から先着順で受け付け、毎週火曜日は看護学校生向け対応を中心に行った。

団体見学対応プログラムは、ガイダンスビデオ視聴、語り部の話、展示見学の 3 つの要素で構成し、団体来館者の希望に応じて組み合わせて実施した。

また希望する団体に対しては、事前調整の上、学芸員による展示解説・質疑応答への対応・講義等を行った。

■一般団体

対応日：原則として平日午後 ※土・日・祝日は①と③のみ
 内容：①ガイダンス映像「終の向こう側」視聴（約 40 分 於映像ホール）
 展示見学の手引きとして平成 19（2007）年に制作。日本を中心としたハンセン病患者・回復者およびハンセン病対策の歴史と現状の概要をまとめている。
 ②語り部活動（約 50 分 於映像ホール）
 ③展示自由見学

■小・中学生

対応日：原則として平日
 内容：①子ども向けガイダンス映像「忘れられた人たち」視聴（約 9 分 於映像ホール）
 子どものための展示見学の手引きとして平成 19（2007）年に制作。ハンセン病をめぐる偏見・差別と、身の回りのいじめとのつながりの理解を促す。
 ②語り部活動（約 50 分 於映像ホール）
 ③展示見学（展示室で学芸員が質問対応を行う）

■平成 21（2009）年度 月別来館団体数・団体来館者数（平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月）

月	来館団体数	団体来館者数	月	来館団体数	団体来館者数
4	15	695	10	21	661
5	14	656	11	38	1,273
6	23	682	12	19	691
7	22	918	1	9	375
8	16	444	2	20	729
9	17	545	3	17	562
			計	231	8,231

2 語り部活動・講義

1) 語り部活動

団体対応プログラムの一環として、多磨全生園入所者であり当館運営委員の佐川修と平沢保治が、自らの体験とハンセン病史の概要を来館者に語る「語り部活動」を実施した。今年度の実施状況は 145 団体（全 231 団体中）、5,873 人（全団体来館者 8,231 人中）であった。



佐川 修（当館運営委員、多磨全生園入所者自治会長）



平沢 保治（当館運営委員）

2) 看護学生向け講義

看護学生を中心とした医療・福祉関係者の団体への対応として、当館館長の成田稔によりハンセン病の歴史と現状から学ぶ看護のあり方等について講義を行った。講義は看護学校向け団体対応プログラムに組み込まれている（原則週 1 回、火曜日）。今年度の実施回数は 18 回、受講来館者数は 642 人であった。



成田 稔（当館館長、国立療養所多磨全生園名誉園長）

3) 学芸員による対応

展示解説を希望する団体に対して、事前調整のうえ学芸員が展示解説や講義、質疑応答への対応を行った。また小・中学生の見学に際し、展示室にて質問への対応等を行った。今年度の対応団体数は 65 団体であった。

4) 館外講演会への講師派遣

学校等との連携事業の一環として小・中・高等学校、大学等の教育機関への講師派遣（語り部・学芸員）を行った。また自治体、その他団体からの講師派遣依頼を受け、語り部や学芸員が講師として出向した。

a. 語り部による館外での講演活動 計 17 件 2,507 人

期日	会場	対象	人数	講演者
平成 21 (2009) 年				
4 月 11 日	東村山ふるさと歴史館	東村山市民	40 人	平澤保治
5 月 1 日	西東京市立柳沢中学校	全校生徒および保護者	370 人	平澤保治
5 月 8 日	東村山市立化成小学校	同校生徒 (6 年生)	103 人	平澤保治
5 月 14 日	東村山市立八坂小学校	同校生徒 (6 年生)	125 人	平澤保治
5 月 15 日	立川市多摩社会教育会館ホール	幼稚園・小学校・中学校の園長 および校長		平澤保治
8 月 27 日	加須市市民総合会館 (市民プラザかぞ)	加須市教育委員会 (市内小中学校教諭)	40 人	平澤保治
9 月 5 日	名古屋法音寺本堂	法音寺昭徳会	130 人	佐川修
9 月 6 日	名古屋法音寺講堂	法音寺昭徳会	200 人	佐川修
9 月 18 日	大田区・池上会館	大田区教育委員会 (区内小中学校教諭)	90 人	佐川修
10 月 28 日	大妻嵐山高等学校	同校生徒 (3 年生)	200 人	佐川修
10 月 31 日	小平市立第一中学校	同校生徒 (全学年)	550 人	佐川修
10 月 31 日	小平市立第一中学校	同校教員・保護者・市教育長	23 人	佐川修
11 月 12 日	東村山市立富士見小学校	同校生徒	280 人	平澤保治
11 月 25 日	千葉県立美術館	千葉県立高等学校教育研究会・人権同和教育部会秋季研究協議会	80 人	佐川修
11 月 26 日	りそな銀行花小金井研修所	りそな銀行多摩地区 25 行職員	110 人	佐川修
12 月 2 日	大田区立貝塚中学校	同校生徒 (1 年生)	126 人	佐川修
平成 22 (2010) 年				
1 月 25 日	埼玉県三芳町役場	地区職員研修	40 人	佐川修

※平澤保治氏の講演は東村山市のボランティアの協力を得て実施した

b. 学芸員による館外での講演活動 計 11 件 1,893 人

期日	会場	対象	人数	講演者
平成 21 (2009) 年				
5 月 22 日	武蔵野公会堂	都立公立小学校事務職研究会	200 人	西浦直子

6 月 11 日 - 12 日	國立臺灣師範大學	東亞近代漢生病政策與醫療人權國際シンポジウム参加者	100 人	西浦直子
6 月 12 日	中央大学文学部	「博物館概論」受講生	60 人	黒尾和久
6 月 13 日	琵琶湖グランドホテル	おおつ福祉会	100 人	金貴粉
7 月 13 日	小平市立小平第六中学校	同校全学年生徒	570 人	黒尾和久
7 月 14 日	東京学芸大学	「博物館実習」受講生	45 人	黒尾和久
7 月 22 日	入間市産業文化センターホール	入間市職員研修「人権問題研修」受講職員	220 人	西浦直子
8 月 1 日	ちば県民プラザ	平成 21 年度千葉県教育研究会	50 人	西浦直子
11 月 2 日	埼玉県立所沢北高等学校	同校 2 年生および職員	380 人	西浦直子
平成 22 (2010) 年				
2 月 17 日	東久留米市小山小学校	人権教育研究発表会参加者 (小学校教諭)	50 人	黒尾和久
3 月 8 日	小平市立学園東小学校	同校 5・6 年生、教諭・保護者	118 人	西浦直子

3 シンポジウム・講演会等の開催

1) シンポジウム「隔離の記憶を掘る ～全生病院「患者地区」を囲んだ「堀・土塁 (ほり・どるい)」～」の開催

内容：企画展「隔離の百年—公立療養所の誕生—」(「II 展示機能」参照)の付帯事業として、シンポジウム「隔離の記憶を掘る ～全生病院「患者地区」を囲んだ「堀・土塁 (ほり・どるい)」～」を開催した。当該企画展では資料の残存状況から文書資料中心の展示となったことと関連して、全生病院 (現多磨全生園) の敷地内に眠る遺構について、同時代の歴史的状況を伝える重要な「実物資料」であることを、各年代の同園の構内図・写真等を用いて報告・討論した。

日時：平成 21 (2009) 年 9 月 27 日 (日) 13:00-16:30

場所：当館映像ホール

講演者：成田稔館長、黒尾和久学芸課長 司会：稲葉上道学芸員

参加者：120 人



黒尾和久学芸課長の講演



討論

2) 国際ハンセン病政策シンポジウム (第一回) 「ハンセン病医療政策と資料保存—日本とノルウェー—」の開催

内容: ノルウェーは、20世紀前半のハンセン病医学・医療を国際的にリードした地である。本シンポジウムでは、ベルゲン市所在の研究機関からハンセン病医療政策の歴史研究に携わる3人の研究者を招き、第1部としてそれぞれの方より現地において収集・保存されてきたハンセン病史料の概要や価値等について講演を行った。また第2部のパネルディスカッション「なぜハンセン病の歴史資料は保存されなければならないのか」では、ノルウェーの研究者と、日本におけるハンセン病史料保存機関の草分け的存在である、高松宮記念ハンセン病資料館(現国立ハンセン病資料館)の創設・運営に関わってきた回復者(現国立ハンセン病資料館運営委員・語り部)が、ハンセン病史料の保存をめぐる意義と現状について議論を行った。(金沢大学と共催、第二回は金沢市において開催)

日時:平成22(2010)年1月21日(木) 13:30-16:30

場所:当館映像ホール

講演者:シグード サンドモ氏(ハンセン病博物館学芸員)

アーネ スキヴェンス氏(ベルゲン市立アーカイブス所長)

ユングベ ネルレボ氏(在ベルゲン国立アーカイブス所長)

パネリスト:シグード サンドモ氏

アーネ スキヴェンス氏

ユングベ ネルレボ氏

平沢保治

(ハンセン病患者・国立ハンセン病資料館運営委員)

佐川 修

(ハンセン病患者・国立ハンセン病資料館運営委員)

司会 黒尾和久学芸課長

入場者:120人

発行物:国際ハンセン病シンポジウム(第一回)

「ハンセン病医療政策と資料保存—日本とノルウェー—」予稿集(17ページ)

国際ハンセン病政策シンポジウム
International Symposium of
Hansen's disease policy

ハンセン病医療政策と
資料保存
—日本とノルウェー—
Hansen's disease medical policy
and preservation of archives
-Japan and Norway-

2010年1月21日(木) 13:00~16:30

主催 国立ハンセン病資料館・金沢大学
後援 全国ハンセン病歴史研究会・ノルウェー王国大使館
多摩全生園入所者自治会・日本財団・岩川記念保徳会
社会福祉法人ふれあい福祉協会・栗村山形市利養会
清洲福祉会・弘前市福祉会・小野市福祉会
東北福祉会・秋田福祉会・小笠原福祉会
西東京市福祉会・前中市教育委員会・国立市教育委員会 ほか



ユングベ・ネルレボ氏の講演



アーネ・スキヴェンス氏の講演



シグード・サンドモ氏の講演



パネルディスカッション

3) 桃生小富士展記念 Everly コンサート

内容:「桃生小富士展」(「II 展示機能」参照)に併せ、クラシックとポップスを融合させた楽曲を中心に活動しているユニット Everly (エバリー) による演奏会を行った。桃生小富士氏の作品が持つ、温かさ、やさしさ、強さ、しなやかさに重なる音楽を来館者に提供し、また新たな桃生小富士作品の魅力を感じていただける内容とした。隣接する多磨全生園の入所者も参加し、日頃聴く機会が少ない弦楽の生演奏に触れる良い機会となったことに喜びの声が聞かれた。

日時:2010年2月13日(土) 13:30~15:00

場所:当館映像ホール

出演者:Everly (エバリー)

参加者:100名



Everlyの演奏

4 資料の貸出

1) 写真パネルの貸出

自分たちでハンセン病の理解を進める展示を企画したいという方々を対象とした貸出用キット（写真パネル）を用意している。各圖の写真を集めたキット（1組・46枚）、および貸出希望の多い多磨全生園の写真を集めたキット（1組・20枚）の貸出を行った。

■貸出件数 12件

貸出先	期日	内容
板橋地区人権擁護委員会	5月23日～6月3日	多磨全生園写真パネル
北海道保健福祉部保健医療局医療政策課	6月17日～6月27日	全国療養所写真パネル
ハンセン病首都圏市民の会	7月17日～7月22日	多磨全生園写真パネル
ハンセン病回復者の本当の人権回復と社会復帰へ向けて共に歩む会・大分	7月23日～8月13日	全国療養所写真パネル
東京法務局人権擁護部	7月23日～7月24日	多磨全生園写真パネル
東京都人権啓発センター	8月6日～8月31日	多磨全生園写真パネル
ハンセン病首都圏市民の会	9月19日～9月23日	多磨全生園写真パネル
東京法務局人権擁護部	10月30日～11月3日	多磨全生園写真パネル
ハンセン病首都圏市民の会	11月1日～11月6日	全国療養所写真パネル
ハンセン病首都圏市民の会	11月21日～11月23日	全国療養所写真パネル
国土交通省関東地方整備局	11月10日～11月15日	全国療養所写真パネル
小諸市役所市民生活部人権政策課	12月12日～12月16日	全国療養所写真パネル

2) 子ども向けガイダンス映像「忘れられた人たち」および「未来への虹」のDVD貸出

当館で作成した小学生向けガイダンス映像「忘れられた人たち」のDVD、およびアニメーションDVD「未来への虹」の貸出を行った。

■貸出件数 5件

貸出先	期日	内容
平成21(2009)年		
東京都立川市立第二中学校	5月24日～5月30日	「忘れられた人たち」
東京都羽村市立羽村第二中学校	10月4日～10月30日	「忘れられた人たち」
ハンセン病首都圏市民の会	11月1日～11月6日	「未来への虹」
千葉県松戸市立松飛台第二小学校	11月9日～12月10日	「忘れられた人たち」
平成22(2010)年		
宮城県白石高等学校七カ宿校	1月26日～1月31日	「忘れられた人たち」

3) その他

- a. ハンセン病に関する啓発資料等の制作にあたり、当館所蔵資料の画像掲載等を希望する自治体、団体等に対して、協力を行った。

■協力件数 22件

協力先	期日	内容	目的
朝日新聞社	平成21(2009)年4月	展示室撮影	新聞への掲載
(株)日テレアックスオン	平成21(2009)年4月	所蔵資料撮影	映像制作に利用
個人	平成21(2009)年4月	所蔵資料複製・転載	書籍への掲載
(株)メヂカルフレンド社	平成21(2009)年6月	展示室撮影	書籍への掲載
個人	平成21(2009)年8月	所蔵資料撮影	論文執筆に利用
個人	平成21(2009)年8月	所蔵資料複製・展示室撮影	映像制作に利用
熊本日日新聞社	平成21(2009)年9月	展示室撮影	新聞への掲載
朝日新聞社立川支局	平成21(2009)年9月	所蔵資料複製・展示室撮影	新聞への掲載
東村山ふるさと歴史館	平成21(2009)年9月	所蔵資料複製・資料貸出	企画展への出展
西日本新聞社	平成21(2009)年10月	展示室・所蔵資料撮影	新聞への掲載
愛媛新聞社	平成21(2009)年10月	展示室撮影	新聞への掲載
産経新聞社大阪社会部	平成21(2009)年10月	所蔵資料複製	新聞への掲載
東京ボランティア・市民活動センター	平成21(2009)年10月	所蔵資料複製	機関誌への掲載
読売新聞東京本社	平成21(2009)年11月	所蔵資料複製	新聞への掲載
(財)東京都人権啓発センター	平成21(2009)年11月	所蔵資料複製	展示パネル制作に利用
(株)グループ現代	平成21(2009)年12月	所蔵資料複製	映像制作に利用
東村山ふるさと歴史館	平成22(2010)年1月	所蔵資料複製	同館展示への出展
天理教啓発委員会	平成22(2010)年2月	所蔵資料撮影・複製	同会啓発紙への掲載
NHK国際放送局	平成22(2010)年2月	展示室撮影	海外報道に利用
(財)人権教育啓発推進センター	平成22(2010)年2月	所蔵資料複製	啓発資料への掲載
京都府教育庁指導部学校教育課	平成22(2010)年3月	所蔵資料撮影・複製	人権学習資料集作成
NPO法人人権センターながの	平成22(2010)年3月	常設展示図録掲載資料の転載	講演会配布資料への掲載

※調査研究目的、およびメディアへの利用等の公開を前提としないケースは略した

b. 平成 21 (2009) 年度国立ハンセン病資料館語り部の記録ビデオ映像制作

国立ハンセン病資料館における語り部の講演活動の記録を組み込んだ教材ビデオの制作を開始した(平成 22 年度まで 2 ヶ年計画)。平成 21 (2009) 年度は平澤保治氏の講演を基に、「小学 4 年生以下対象」、「中学生対象」の 2 作品を制作した。

制作にあたっては、當摩彰子氏(東村山市教育委員会委員)、佐久間建氏(東村山市立野火止小学校教諭)の協力を得た。

5 刊行物

1) 下記の刊行物について作成・配布した。

・『資料館だより』(季刊) 第 63 号～第 66 号

(平成 21 (2009) 年 4 月・7 月・10 月・1 月各 1 日発行 カラー・A4 縦 各 4 ページ)



『資料館だより』第 63 号～第 66 号

・2009 年度企画展図録『隔離の百年—公立療養所の誕生—』

(平成 21・2009 年 8 月 28 日発行 A4 縦・カラー・64 ページ)

・『平成 20 (2008) 年度 国立ハンセン病資料館年報 第 2 号』

(平成 21・2009 年 10 月 31 日発行 A4 縦・モノクロ・46 ページ)

・『国際ハンセン病シンポジウム(第一回)「ハンセン病医療政策と資料保存—日本とノルウェー—」予稿集』(平成 22・2010 年 1 月 21 日発行 モノクロ・A4 縦・17 ページ)

・2009 年度企画展図録『桃生小富士展』

(平成 22・2010 年 1 月 31 日発行 B5 変形・カラー・44 ページ)

・『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2009』

(平成 22・2010 年 3 月 31 日発行 A4 縦・カラー・120 ページ)

・『国立ハンセン病資料館 研究紀要 第 1 号』

(平成 22・2010 年 3 月 31 日発行 A4 縦・モノクロ・94 ページ)

・『国立ハンセン病資料館ブックレット 1 「隔離の記憶を掘る」シンポジウムの記録』

(平成 22・2010 年 3 月 31 日発行 A5 縦・カラー・84 ページ)

・『国立ハンセン病資料館ブックレット 2 ハンセン病関連法令等資料集』

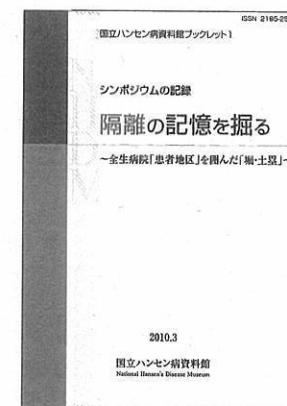
(平成 22・2010 年 3 月 31 日発行 A5 縦・モノクロ・293 ページ)

・『ハンセン病図書館旧蔵書目録』

(平成 21・2009 年 3 月 31 日発行 B5 縦・モノクロ・557 ページ/CD-ROM)



国立ハンセン病資料館常設展示図録 2009



国立ハンセン病資料館ブックレット 1
「隔離の記憶を掘る」シンポジウムの
記録

・2007 年度秋季企画展図録『こころのつくろい—隔離の中での創作活動—』第 2 刷

(平成 19・2007 年 10 月初版 平成 22・2010 年 3 月 31 日発行 A4 縦・カラー・48 ページ)

・2008 年度秋季企画展図録『ちぎられた心を抱いて—隔離の中で生きた子どもたち—』第 3 刷

(平成 20・2008 年 9 月初版 平成 22・2010 年 3 月 31 日発行 A4 縦・カラー・48 ページ)

・2008 年度企画展図録『北高作陶展』第 2 刷

(平成 21・2009 年 1 月初版 平成 22・2010 年 3 月 31 日発行 A4 縦・カラー・36 ページ)

2) パンフレットの改訂

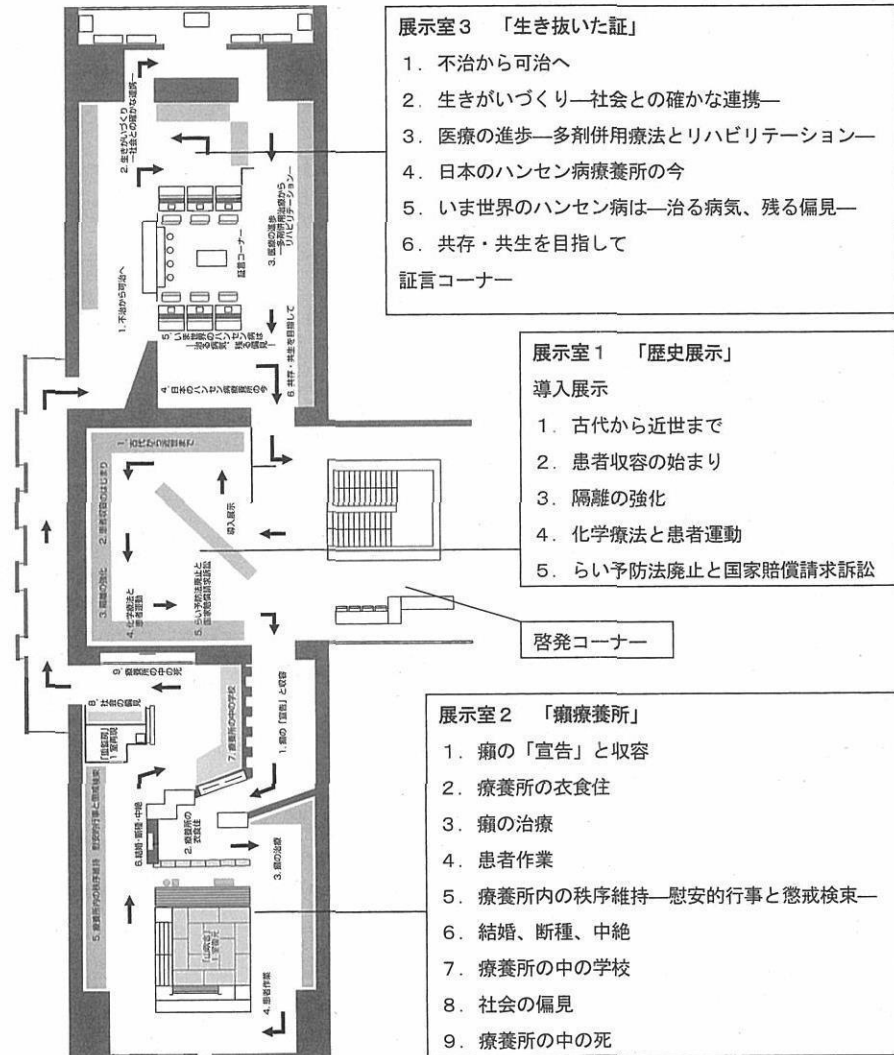
常設展示の更新等に合わせ、来館者等に配布している当館パンフレット「国立ハンセン病資料館」の日本語版、英語版、中国語版、韓国語版をそれぞれ改訂した。

II 展示機能

1 常設展示

1) 常設展示

常設展示室は展示室1「歴史展示」、2「癩療養所」、3「生き抜いた証」、および啓発展示コーナーの4つのエリアで構成し、約950点の資料を展示している。

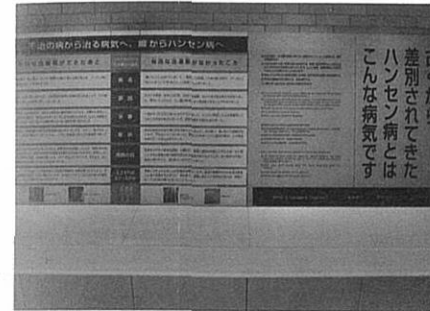


a. 展示室1 「歴史展示」

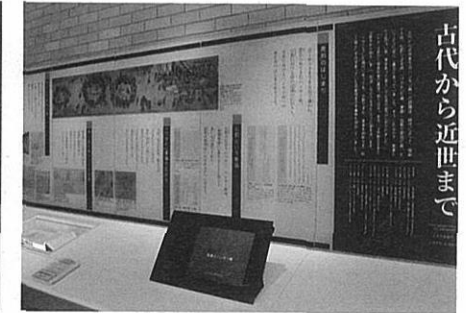
趣旨：病気についての簡潔な説明を導入展示として設置し、続けて日本における古代から現在までのハンセン病の歴史を、通史的に追う。常設展示の中心である展示室2「癩療養所」、および3「生き抜いた証」を見るための前提として、歴史的経緯の把握を目指すための展示と位置づけている。

主な資料：文書・写真・地図、実物資料・模型等

(ほか解説映像5本、めくり資料6種、小学生向け解説シート9種を設置)



導入展示



1. 古代から近世まで



2. 患者收容の始まり



3. 隔離の強化



4. 化学療法と患者運動



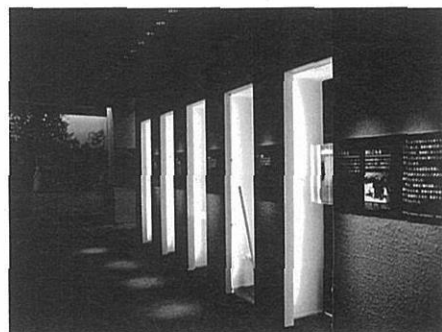
5. らい予防法廃止と国家賠償請求訴訟

b. 展示室2 「癪療養所」

趣旨：化学療法開発以前の時代を中心に、患者にとって療養所の中での暮らしがどれほど苦しいものであったかを示す。発病してから入所するまでの絶望と、入所後に療養所で生きていく中での絶望とを展示している。療養所および所内での生活を成り立たせてきた各要素でコーナーを構成し、雑居部屋や「重患房」の1室の原寸再現も展示している。

主な資料：生活用具・作業道具・治療器具等の実物資料、男子独身軽症者寮「山吹舎」の1室復元・「重監房」1房復元、文書・写真等

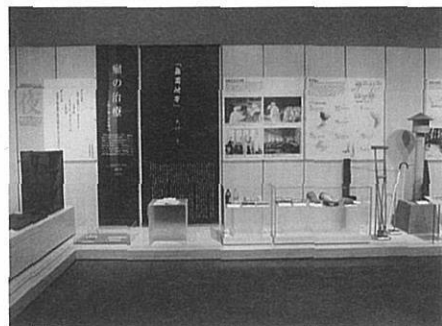
(ほか解説映像2本、めくり資料3種、解説シート1種を設置)



1. 癪の「宣告」と収容



2. 療養所の衣食住



3. 癪の治療



4. 患者作業



5. 療養所内の秩序維持—慰安的行事と懲戒検束—



6. 結婚、断種、中絶



7. 療養所の中の学校



8. 社会の偏見



9. 療養所の中の死

c. 展示室3 「生き抜いた証」

趣旨：苦しい状況にあったからこそ自らの生きる意味を探り見いだしてきた、患者・回復者の力強い姿を示す。それらを表すものとして、患者運動の成果、創作活動、治る時代のリハビリテーションなどを取り上げている。また全国42人の回復者・関係者による、主に自身の人生について語っていただいたお話を聞くことができるビデオブース（証言コーナー）を設けている。なお常設展示室2から常設展示室3に至る回廊には絵画作品を、常設展示室3の北側展望ギャラリーには陶芸作品を展示している。

主な資料：写真・文書資料、文学作品、絵画・陶芸・書・手芸、スポーツ・演芸の道具、治療薬、補助具・補装具、海外のハンセン病に関する文書類等

(ほか解説映像3本、証言映像42本)



導入 サインと「展示舌読」



1. 不治から可治へ



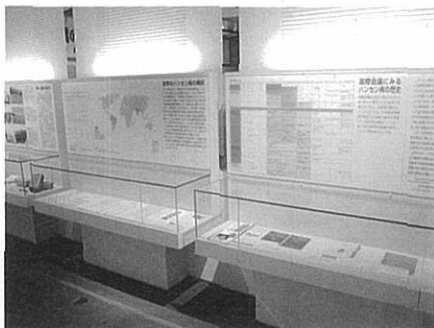
2. 生きがいつくり—社会との確かな連携—



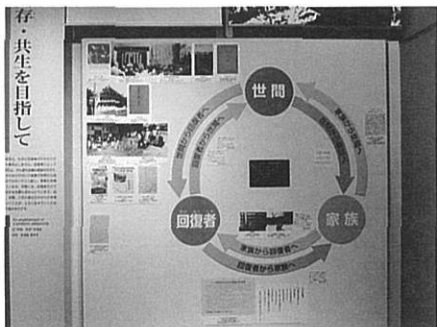
3. 医療の進歩—多剤併用療法とリハビリテーション—



4. 日本のハンセン病療養所の今



5. いま世界のハンセン病は—治る病気、残る偏見—



6. 共存・共生を目指して



証言コーナー

d. 啓発コーナー（今年度は開設せず）

e. プロムナード展示

当館が高松宮記念ハンセン病資料館として設立準備を始めた平成5（1993）年以前から、開館後14年間の活動を経て、国家賠償請求訴訟における原告勝訴の結果実現したリニューアルまでの経緯と、当館の目的、理念、機能、建築面積、年間運営費等の基礎情報を展示している。



プロムナード展示

2) 常設展示の修正

学芸課で館長の指示に基づき常設展示の修正計画を作成し、運営委員会で協議の上、下記のように更新を進めた。なお展示プランについては、学芸課において引き続き検討中である。

・常設展示室1「歴史展示」に小学生向け解説シート9種を設置 平成21（2009）年9月

- 「かんたん解説① 江戸時代まで」
- 「かんたん解説② 療養所のはじまり1
—キリスト教や仏教の療養所—」
- 「かんたん解説③ 療養所のはじまり2
—国と県の療養所—」
- 「かんたん解説④ 療養所のしくみ」
- 「かんたん解説⑤ 強制的な隔離」
- 「かんたん解説⑥ 治る薬の登場と
患者さんたちの活動」
- 「かんたん解説⑦ らい予防法の廃止と裁判」
- 「かんたん解説⑧ 病気が治ったのにどうして
療養所に住んでいるの？」
- 「かんたん解説⑨ 今の療養所」



小学生向け解説シート

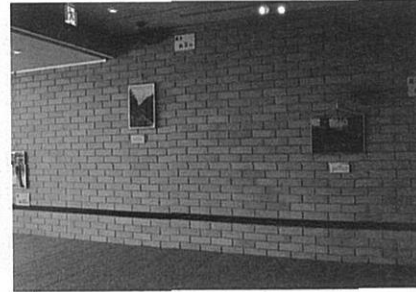
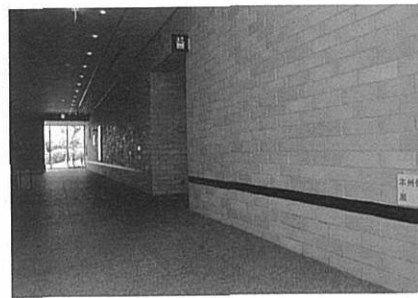
・常設展示室3「不治から可治へ」「生きがいつくり」「証言コーナー」の更新

平成21（2009）年12月～平成22（2010）年2月

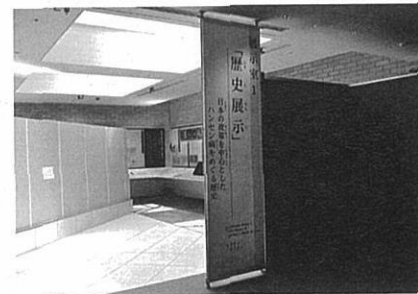




・1階ロビー 療養所と外界を隔てた「瀬溝」・コンクリート壁・ヒイラギの垣根の展示追加
平成21(2009)年12月



・常設展示室1 「歴史展示」に可動壁設置、各室サイン設置(常設展示室の導線の整理)



・常設展示室3 盲人バンド「青い鳥楽団」バナー作成・設置



2 企画展示

1) 企画展「隔離の百年—公立癩療養所の誕生—」

趣旨：公立癩療養所設置100年という節目に、ハンセン病とその回復者への関わり方を改めて振り返る場として、療養所設立の経緯や当時の設置地域の状況などを紹介する企画展を開催した。

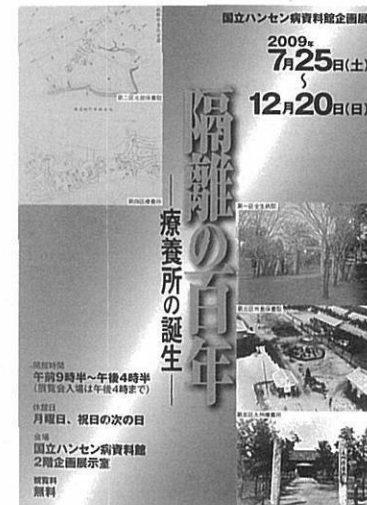
展示は二部構成とし、第一部「癩対策のはじまり」では、政策としての「癩対策」の開始に至る経緯と公立癩療養所が設立されていく過程を追ひ、第二部「各療養所の成立」では、全国5カ所に設置された公立癩療養所付近の地域の反応を中心に、各療養所が設立される過程を新聞記事や写真、地図等で追った。また本展開催にあたり、第一区から第五区までの療養所設置地域における同時期の新聞記事、写真、文書資料等の調査・資料収集を行った。

会期：平成21(2009)年7月26日(土)～12月20日(日)

会場：当館企画展示室

出版物：展示図録『隔離の百年—公立癩療養所の誕生—』(A4版 64頁)

担当：黒尾和久・西浦直子・稲葉上道・金貴粉・田代学



「隔離の百年」ポスター



2) 「隔離の百年」プレ企画展—写真パネル展

企画展「隔離の百年」を開催するにあたり、最初の公立癩療養所として設置された5つの療養所の歴史について写真パネルで追う展示会を開催した。

会期：松丘保養園展 期間：平成21(2009)年4月14日～26日

多磨全生園展 期間：平成21(2009)年4月28日～5月10日

外島保養院展 期間：平成 21 (2009) 年 5 月 19 日～31 日
 大島青松園展 期間：平成 21 (2009) 年 6 月 2 日～14 日
 菊池恵楓園展 期間：平成 21 (2009) 年 6 月 16 日～28 日

会場：当館企画展示室

担当：稲葉上道・金貴粉・田代学・西浦直子



「菊池恵楓園」展

3) 企画展「桃生小富士展」

趣旨：東北新生園自治会機関誌『新生』の表紙を飾ってきた、同園入所者の桃生小富士（ものうこふじ）さんの水彩画色紙 53 点を、桃生さん制作の川柳と共に展示した。水彩画には桃生さんの日常に向けた温かい目と、故郷へのひたむきな思慕とが描かれ、川柳からはユーモアとふるさとを思う気持ちがうたわれている。作品はさみしさの中にもこころの豊かさを失わなかった桃生さんの生き方が表現されていた。なお本展開催にあたり、東北新生園において展示資料を含めた桃生小富士さんの水彩画・川柳など作品制作に関する調査、資料収集を行った。

会期：平成 22 (2010) 年 1 月 31 日 (土) ～2 月 28 日 (日)

会場：当館 1 階 ギャラリー

出版物：展示図録『桃生小富士展』(B5版変形 44 頁)

担当：金貴粉



桃生小富士展ポスター



III 収集保存機能

1 資料の収集

1) 資料の収集

今年度開催した企画展「隔離の百年—公立療養所の誕生—」に関連して、療養所設立当時の各地元の新聞記事・写真・文書資料等の収集を行った。

また寄贈・購入等により、各療養所における生活資料、回復者による作品、文書資料、書籍等ハンセン病にまつわる資史料の収集を行った（概要は下記のとおり）。

■寄贈（実物・文書資料）

寄贈者	資料名	受入時	点数
笹川記念保健協力財団	Leprosy global Appeal 2009	4 月	1
前山とき	刺繍（小林はな作）	5 月	1
瀬戸喜彦	『長島愛生園』、長島愛生園絵ハガキ、家庭医学読本（昭和 20～30 年代）	5 月	8
加藤博子	編み機部品	9 月	一組
加藤博子	人台	9 月	1
加藤博子	絵画（油彩）	9 月	1
山下良子	ハーモニカ・ハーモニカ組立器（故近藤宏一氏遺品）	11 月	2
石井博	畳	11 月	1
石井博	畳替え台	11 月	1
石井博	裁縫箱・小タンス	11 月	2
汲田能治	義足・点字器等	12 月	一組
ユングベ、ネルレボ	第 1 回国際癩会議プログラム・写真	1 月	一組
坂井定治	布団	2 月	一組
(個人)	農産物品評会賞状（コピー）	2 月	3
(個人)	義足領収簿	2 月	1
(個人)	人形	2 月	1
鈴村洋子	絵画・詩原稿（水彩・カラーマジック）	2 月	一組

■購入

資料名	受入時	点数
回天病院薬局の写本	11月	1
『衛生読本』	1月	1
『深い淵から』(初版本)	1月	1
『日本衛生史』	1月	1

■収集

資料名	受入時	点数
樂生療養院のレンガ	6月	6

2) 資料の複製

劣化が著しい被服資料3種7点について、展示等での活用を目的に複製を行った。

2 収蔵資料の保管

1) 収蔵資料の整理

今年度は実物資料について資料情報の把握につとめ、資料目録発行のため目録整備作業を進めた。また昨年度整理作業を進めた資料、特に音声・映像資料のデジタル化について検討・実施した。対象は、ビデオテープ(VHS方式、VHS-C方式、8方式)1,008本、音声カセットテープ1,887本、オープンリール345本、検証会議の音声カセットテープ1,142本である。平成21(2009)年11月から翌年3月にかけて、昨年度作成したリストをもとにデジタル化を行い、実物資料の保管と共に将来にわたって資料情報を継続するための作業を行った。

また「全生常会書類綴」「執行委員会記録」「舎長会記録簿」などの療養所・自治会の公文書、およびガリ版刷りの「園内報」など稀少資料について1万コマのマイクロフィルム撮影を行った。

2) 新収蔵資料の燻蒸

第1収蔵庫・第2収蔵庫・特別収蔵庫、および一時保管庫の燻蒸を平成21(2009)年5月11日から13日まで実施した(エキヒュームSによる殺虫・殺卵・殺カビ、24時間密閉燻蒸)。また平成21(2009)年度新収蔵資料の燻蒸を、館外施設において平成22(2010)年3月26日より同月末日まで実施した。いずれも、殺虫・殺卵・殺カビ共に効果100%と判定された。

3) 資料の修復

平成22(2010)年3月までに、当館所蔵油彩画「黄瀬川にて」(加藤博子作)の修復を行った。また歌舞伎衣装などの被服資料を中心に劣化の著しい資料13点の修復を行った。

4) 館内環境の保全

収蔵庫環境は恒温恒湿空調管理によって夏期24℃・冬期20℃、湿度は年間を通じて50%前後を確保し、その他は開館時間のみ冷暖房を用いた。また温湿度記録計を用いた24時間の測定を行うと共に、館内各所で害虫等の捕獲数の増減を観測した。

IV 調査研究機能

1 収蔵資料に関する調査

収蔵資料について入所者の方からのヒアリングを行う等、資料情報の詳細な把握に漸次努め、常設展示・企画展示や資料カードの作成等に反映した。

2 企画展示に伴う調査

今年度開催した企画展・特別展に伴う調査については「II 展示機能」参照。平成 21 (2009) 年度企画展については学芸員（黒尾和久・稲葉上道・金貴粉・田代学・西浦直子）が、東京・青森・大阪・熊本、他関係諸機関において公立療養所設置前後の新聞記事、写真、文書等の調査、収集を行った。「桃生小富士展」については担当学芸員（金貴粉）が東北新生園において作品制作者・関係者からの調査、資料収集を行った。

なお来年度（平成 22 年度）開催予定の企画展に伴う調査について、学芸員が関係諸機関において調査を行った。これについては平成 22 (2010) 年度引き続き行う。

3 ハンセン病・博物館に関する調査研究活動

1) ハンセン病関係機関・博物館施設における研修等

当館の今後の活動に資するため、全国のハンセン病療養所やハンセン病関連施設での事業、博物館等関連施設に関する事業、文部科学省科学研究費助成を認定された研究等に学芸員が出向し調査・研究活動を行った。

期日	内容	人員
平成 21 (2009) 年		
5 月 13 日	科学技術館見学研修	全職員
5 月 22 日	三多摩博物館協会総会に参加	黒尾和久 高野弘之
6 月 2 日～6 日	国立療養所菊池恵楓園・同社会交流会館の見学 本妙寺周辺の実地調査 熊本県立博物館見学 待労院診療所・同資料展示室の見学	黒尾和久 西浦直子
6 月 11 日～12 日	台湾樂生療養院・樂山療養院の見学・実地調査	西浦直子
7 月 8 日～9 日	所沢航空発祥記念館見学研修	全職員
8 月 7 日～10 日	国立療養所沖縄愛楽園・沖縄県ゆうな協会・沖縄県立平和祈念資料館の見学・調査	黒尾和久 稲葉上道
8 月 20 日～30 日	科学研究費補助金による戦争博物館・戦争遺跡の学術的実地調査	金貴粉

	ワルシャワ蜂起記念館／国立アウシュビッツ強制収容所博物館／ビルケナウ収容所（以上ポーランド） ユダヤ博物館／オットー・ヴァイト視覚障害者工作所博物館／「暴力の地誌」展示場／チェックポイントチャーリー「壁」博物館／ホロコーストメモリアル等（以上ドイツ）	
9 月 4 日～5 日	疾病に関する博物館等の見学（新潟水俣病資料館ほか）	稲葉上道
9 月～12 月	東村山ふるさと歴史館企画展「多磨全生園と東村山」見学	全職員
10 月 23 日～26 日	思文閣・ものよし村跡（京都府）、北山十八間戸および西山光明院跡（奈良県）の見学 国立療養所星塚敬愛園、水俣病資料館（熊本県）の見学	稲葉上道
11 月 1 日～3 日	国立療養所長島愛生園における故近藤宏一氏所蔵のハーモニカ組立器の寄贈に伴う現地調査	金貴粉
11 月 24 日～25 日	草津温泉（群馬県）における長吏小頭・湯根（湯花屋）三右衛門の足跡とハンセン病患者の関わりについての実地調査	黒尾和久
11 月 21 日～22 日	国立歴史民俗博物館からの依頼により、国立歴史民俗博物館「東アジア先史時代の定住化過程の研究」研究会に出向	黒尾和久
12 月 2 日～5 日	権現谷岩陰遺跡（岡山県）の実地調査 長島愛生園歴史館企画展「望ヶ丘の子どもたち」見学及び同歴史館所蔵の入所者着用衣類（棒織の単衣・袴）の調査、「自警団」の活動および制服についての調査（国立療養所長島愛生園） ポーダレスアートミュージアム no-ma 企画展「この世界とのつながりかた」（滋賀県） 岡山県立博物館の見学	黒尾和久 西浦直子
平成 22 (2010) 年		
1 月 23 日～24 日	国際ハンセン病政策シンポジウム第二回「ハンセン病医療政策と患者の人権—日本とノルウェー—」（金沢大学と当館との共催）への参加	黒尾和久 稲葉上道

2) 研究紀要の編集・発行

当館学芸員の研究を発表・蓄積し、今後の活動に資することを主たる目的として、研究紀要を編集・発行した。本年度は館内外の執筆者による論文 6 編を掲載した。

タイトル：『国立ハンセン病資料館 研究紀要 第 1 号』

発行：平成 22 (2010) 年 3 月 31 日

仕様：A4 縦・モノクロ（一部カラー）・94 ページ

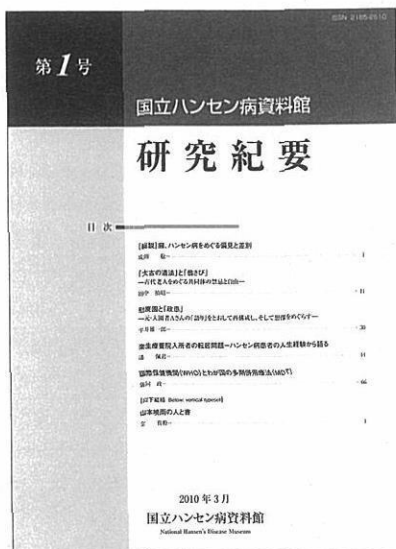
収録論文

総説 類、ハンセン病をめぐる偏見と差別（成田稔）

「太古の遺法」と「翁さび」—古代老人をめぐる共同体の禁忌と自由—（田中禎昭）

慰廃園と「政患」一元・入園者Aさんの「語り」をとおして再構成し、そして想像をめぐる—
(平井雄一郎)

樂生療養院入所者の転居問題—ハンセン病患者の人生経験から語る— (潘佩君)
国際保健機関 (WHO) とわが国の多剤併用療法 (MDT) (儀同政一)
山本暁雨の人と書 (金貴粉)



国立ハンセン病資料館 研究紀要 第1号

V 情報センター機能

1 公式ホームページの運用

広報活動の一環として当館公式ホームページの保守管理・更新を行い、企画展等に関する情報提供を行った。また平成 21 (2009) 年 8 月には団体見学プログラム予約のページを追加し、運用を開始した。平成 22 (2010) 年 1 月には、日本語版パンフレットに加え、英語・中国語・韓国語の各国語版パンフレット PDF データをホームページに掲載した。

国立ハンセン病資料館 ホームページ <http://www.hansen-dis.jp/>

2 図書室について

1) 図書室の運営

今年度は書庫内の未登録資料の迦及入力を優先業務とした。

閲覧要望の多い映像資料の視聴について、視聴覚ブースを新設して対応を開始した。また OPAC (Online Public Access Catalog、蔵書検索システム) のインターネット公開の準備を行い、3月に試験公開を開始した。

劣化の著しい資料についてはマイクロフィルムに複製した。なお新聞・雑誌に掲載されたハンセン病関係記事について、スクラップを収集 (平成 22 年 3 月末現在で 1,200 点余) し、閲覧提供の準備を進めた。

昨年度受け入れた多磨全生園入所者自治会寄贈資料については『ハンセン病図書館旧蔵書目録』として 3 月末に刊行した。

なお図書館関連機関との連携を深めるため、新たに医学図書館協会と患者図書館協会に加盟し、それぞれの催す研修会等に参加した。また隣接するハンセン病研究センター・国立療養所多磨全生園の所蔵図書について資料相互利用協力を行った。

ハンセン病療養所自治会ははじめハンセン病関係機関や個人から新たに寄贈された資料についても逐次整理を施し、調査研究に必要な図書・雑誌を購入するなどした結果、蔵書は 27,996 点となった (平成 22 年 3 月末日現在)。

2) 図書室利用統計 平成 21 (2009) 年 4 月～平成 22 (2010) 年 3 月

月	開室日	入室者数(人)	出納冊数(冊)	レファレンス件数	新規登録者(人)
4	24	196	28	11	0
5	25	181	20	18	0
6	24	172	16	21	3
7	26	223	16	18	2
8	25	241	28	17	2
9	24	283	51	23	4

10	25	284	45	14	0
11	23	271	30	9	0
12	21	258	32	14	5
1	22	241	43	22	3
2	22	267	39	16	3
3	26	192	72	22	0
計	287	2809	420	205	22

VI 管理・サービス機能

1 国立ハンセン病資料館管理運営規定（厚生労働省作成 平成22年3月31日現在）

（目的）

第1条 この規程は、国立ハンセン病資料館（以下「資料館」という。）の管理運営を円滑に行うために必要な事項を定める。

（事業）

第2条 資料館は、ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律（平成13年法律第63号）に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消及びハンセン病患者・元患者の名誉回復を図るため、次に掲げる事業を行う。

(1) 教育啓発事業

ハンセン病に関する文献、実物（民俗、文書、美術、工芸、建築、遺構等）、模型、写真、フィルム、音声、映像、記事、オーラルヒストリー等の資料（以下「資料」という。）について、常設展示・映像ホールを活用して広く公開するとともに、情報を提供する。また、入所者その他の関係者による語り部活動、医療従事者による看護学校学生への医学的な講義等を通じた教育啓発の推進を図る。

(2) 展示事業

資料の収集保存、調査研究の成果を常設展示・特設展示等を通じて公開する。

(3) 収集保存事業

資料の散逸を防ぎ、適切な形で後世に継承するため必要な資料及び図書を継続的に収集し、適切に保存する。

(4) 調査研究事業

ハンセン病に関する事象の調査研究を行い、教育啓発等の活動に有効に資する。

(5) 情報センター事業

資料館の情報システムを活用した情報の受発信及び集積を行い、国内外の関連施設との連携を図る。

(6) 管理・サービス事業

円滑な資料館運営を行い、利用者の利便や普及活動の推進を図る。

(7) 企画調整事業

資料館の活動を行うための連絡調整や全国の関連施設との連携の促進、資料館の存在意義を認知させるための活動を行う。

（年間事業計画）

第3条 国立ハンセン病資料館長（以下「館長」という。）は、毎年、翌年度の年間事業計画を作成し、厚生労働省に提出するものとする。

2 年間事業計画には、当該年度の事業計画の大綱、重点施策、テーマに基づく調査研究、企画展・特別展、資料の収集及び保存、普及啓発活動の具体案等を明記する。なお、軽微な場合を除き、年間事業計画を変更しようとするときは、厚生労働省に変更計画を提出するものとする。

(休館日及び開館時間)

第4条 資料館の休館日及び開館時間は、次のとおりとする。ただし、厚生労働省と協議して、休館日又は開館時間を変更することができる。

(1) 休館日

毎週月曜日（祝日の場合は次の日）及び年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）

(2) 開館時間

午前9時から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

(3) 臨時休館日

その他不測の事態及び資料館の維持管理上必要やむを得ない場合があるときは、臨時に休館日とすることができる。

(入館料)

第5条 資料館の入館料は、無料とする。

(入館の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- (1) 資料、建物若しくはその附属設備をき損し、他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になる物品若しくは動物の類（盲導犬・聴導犬を除く。）を携帯する者
- (2) 公の秩序又は公共の風俗を乱すおそれがある者
- (3) その他職員に指示に従わない者および資料館の管理運営上支障があると認められる者

(入館者への指導)

第7条 職員は、入館者に対して次に掲げる事項を守るよう指導しなければならない。入館者がこの指導に従わないときは、退館させることができる。

- (1) 資料等をき損、または汚損するおそれのある行為をしないこと。
- (2) 備え付けの備品を勝手に移動させないこと。
- (3) 所定の場所以外で飲食又は喫煙をしないこと。
- (4) 大声を発すること、暴力を用いることその他の他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (5) 物品（文書及び図面等を含む。）の販売又は提供をしないこと。
- (6) 勧誘、寄付募集その他これに類する行為をしないこと。
- (7) 座込みその他通行の妨害になるような行為をしないこと。
- (8) 立入りを禁止した場所に立ち入らないこと。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、資料館の運営の妨げになる行為をしないこと。

(損害賠償)

第8条 館長は、資料館の資料又は建物若しくはその附属設備等をき損し、又は滅失した者が判明したときは、その者に対し相当と認める損害の賠償を求めなければならない。

(資料等の亡失・損傷)

第9条 館長は、資料・備品に亡失・損傷その他の事故があったときには、その品名、数量、原因その他必要な事項を速やかに厚生労働省に報告する。

(入館者の傷害事故等)

第10条 職員は、入館者が館内において傷害を負った場合は、直ちに応急措置を施すとともに、傷害の状況、負傷者の住所、氏名、連絡先等を事務局長に報告する。

2 事務局長は、当面の対策について指示するとともに、事後の措置に万全を期さなければならない。

3 前2項の規定は、入館者が病気等のために休憩場所の提供の申し出があった場合について準用する。

(土地、建物および設備等の管理)

第11条 土地、建物及び設備等の管理責任者は、館長とする。

2 館長は、土地、建物及び設備等が滅失、損傷した場合は、速やかに厚生労働省に報告し、指示を受ける。

(施設の使用)

第12条 館の管理する土地、建物、設備等の施設は、館長が業務運営上必要であると認めるときは、第三者に使用させることができる。

(使用者の責任)

第13条 第8条の規定は、施設の利用者が資料館の施設、設備、資料等に損害を与えた場合について準用する。

(資料の寄贈及び寄託)

第14条 第2条各号に掲げる事業に係る資料（以下「資料」という。）の寄贈を受け入れたときは、寄贈資料受入整理簿に必要な事項を記載し、寄贈者に資料受領書を速やかに交付する。

2 資料の寄託は、あらかじめ寄託者と期間を取り決めた上で「寄託資料受入整理簿」に必要な事項を記載し、寄託者に資料受領書を速やかに交付する。また、寄託者が期間前に資料の返還を受けようとするときは、寄託物返還申込書を提出する。

(資料の管理)

第15条 展示資料・収蔵資料等については、常に温湿度等の管理に注意し、異常が生じた場合は、速やかに対応するものとする。

(館長への委任)

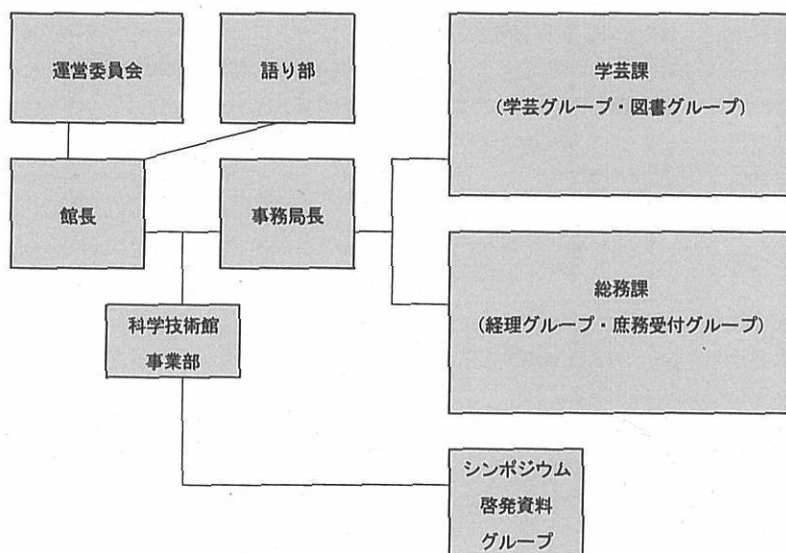
第16条 この規程に定めるもののほか、資料館の管理運営に関し必要な事項は、館長が定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 組織

1) 組織図



2) 職員名簿 平成22(2010)年3月31日現在

館長	成田 稔
語り部	佐川 修 平澤保治
事務局長	山口孝和
学芸課	課長 黒尾和久
	学芸員 稲葉上道 金 貴粉 西浦直子 田代 学 (非常勤職員)
	司書 加藤紗恵香
	司書補佐 福富裕子 高野弘之
総務課	課長 大野匡行
	経理 児島美衣

庶務 熱田純江

受付 曲木昭枝 赤石和子 (非常勤職員) 谷口喜代子 (非常勤職員)

3 事業費管理

国立ハンセン病資料館の事業費管理を行った。

平成21(2009)年度総予算額 277,321千円

4 来館者票記入・アンケートの実施

来館人数や来館目的、来館者の年齢層、地域偏差、交通経路、リピート率などを把握し今度の館活動に資するため入館時に受付にて来館者票の記入をおこなった。また来館者の意見を収集し今後の活動に資するため、アンケート(自由記入形式)を実施した。

5 施設貸出(事前申し込み制)

1) ギャラリー

平成21(2009)年6月9日~28日 合志由布子さんのペン画展「音のない町なみ」



ペン画展「音のない町なみ」

2) 研修室

平成21(2009)年

8月8日 資料館団体見学に伴うグループワーク「きょうされん運動と人権」

主催：きょうされん

8月30日 博物館問題研究会8月例会「ハンセン病資料館と学校教育等について」

主催：博物館問題研究会

10月23日 第7回同和・人権問題連絡協議会

主催：(財) 全日本仏教会 会場：映像ホール、研修室

11月21日 講座「ハンセン病文学と多磨全生園－北条民雄 冬敏之の文学について－」

主催：婦人民主クラブ埼玉支部

11月28日 目白大学学芸員実習

主催：目白大学（社会学部地域社会学科）

11月29日 ハンセン病に関する俳句会

主催：知音俳句会武蔵野みちの会

平成22（2010）年

1月31日 ハンセン病に関する研修会（平澤保治氏の講演）

主催：茨城県民医連つくば分室 宮脇太君（筑波大医学類5年）

3月3日 人権教育現地研修会

主催：さいたま市教育委員会生涯学習部人権教育推進室

3月24日 ハンセン病問題についてのレクチャー

主催：IDEA ジャパン

3) 映像ホール

平成21（2009）年

9月17日 資料館見学後のハンセン病の質疑応答 主催：IDEA ジャパン

10月23日 第7回同和・人権問題連絡協議会

全生園におけるフィールドワーク企画「人権の森（全生園）これからの課題と展望」の
講演および質疑応答 主催：(財) 全日本仏教会

Ⅶ 企画調整機能

1 運営企画検討会・運営委員会

1) 運営企画検討会

a. 趣旨

国立ハンセン病資料館（以下「資料館」という。）の管理運営については、展示機能はもとより当該資料館の様々な機能を十分に発揮し、活動を円滑に推進すること、諸機能の質を維持しさらに発展していくこと、利用者の幅広いニーズに応え活発な事業展開を行っていくこと等を念頭に、資料館の特性を踏まえた管理運営を実現することが必要である。

このため、「ハンセン病資料館等運営企画検討会」を開催し、厚生労働省健康局長の諮問に応じて資料館の運営のあり方等の検討を行い、助言を与えるものとする。

b. 参集者（50音順、敬称略、肩書きは当時）

鮎京真知子（弁護士、ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国弁護士連絡会）

新雄二（ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会事務局長）

神美知宏（全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長）

佐川修（国立ハンセン病資料館運営委員）

島田馨（第一三共株式会社監査役）座長

鈴木真理（青山学院大学教育人間科学部教授）

半田昌之（たばこと塩の博物館学芸部長）

日比野守男（東京新聞論説委員）

増田利之（埼玉県加須市立礼羽小学校校長）

山内和雄（国立療養所神縄愛楽園長）

湯浅洋（財団法人笹川記念保健協力財団顧問）

横田洋三（財団法人人権教育啓発推進センター理事長）

c. 開催日

第1回 平成19（2007）年11月19日（月） 第2回 平成20（2008）年3月21日（金）

第3回 平成20（2008）年12月5日（金） 第4回 平成21（2009）年3月11日（水）

第5回 平成21（2009）年10月20日（火）

2) 平成21（2009）年度 国立ハンセン病資料館運営委員会

a. 国立ハンセン病資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する議論、検討を行い、円滑な実施を図るために行う。委員の任命および招集は館長が行う。事務局は日本科学技術振興財団が担当する。

b. 委員 (50 音順 敬称略 肩書きは当時)

- 委員長 成田 稔 (国立ハンセン病資料館館長)
- 委員 磯岡 政一 (国立感染症研究所ハンセン病研究センター)
- 木村 幸司 (厚生労働省健康局疾病対策課課長補佐)
- 黒尾 和久 (国立ハンセン病資料館学芸課長)
- 神 美知宏 (全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長)
- 佐川 修 (多磨全生園入所者自治会長、国立ハンセン病資料館語り部)
- 平澤 保治 (前多磨全生園入所者自治会長、国立ハンセン病資料館語り部)

c. 開催日

平成 21 (2009) 年

- 第 1 回 6 月 25 日 (木) 第 2 回 7 月 23 日 (木)
- 第 3 回 9 月 15 日 (木) 第 4 回 11 月 11 日 (木)
- 第 5 回 12 月 17 日 (木)

平成 22 (2010) 年

- 第 6 回 1 月 28 日 (木) 第 7 回 2 月 18 日 (木)
- 第 8 回 3 月 25 日 (木)

2 広報活動

1) 資料館だよりの発行

「I 教育啓発事業 4 刊行物制作」を参照。

2) ホームページの管理・運営

「V 情報センター機能 1 公式ホームページ運用状況」を参照。

3) その他の広報

事業の案内を行い、その周知をはかるため印刷物の発行ならびに各種報道機関、近隣自治体の広報誌、社会福祉協議会広報誌等への広報依頼を行った。また最寄りの交通機関に看板等を設置し近隣への周知をはかった。

3 博物館施設等との連携

地域の博物館施設や専門図書館との交流促進のため、日本博物館協会、東京都博物館協会、三多摩公立博物館協議会ならびに医学図書館協会、日本患者図書館協会に加盟している。

平成 21 (2009) 年度 利用状況

1 開館日数

平成 21 (2009) 年度の開館日数は、301 日 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日) であった。

2 入館者数

平成 21 (2009) 年度の各月入館者数、および各月の開館日に対する 1 日あたり平均入館者数は以下の通りであった。

	入館者数(人)	開館日(日)	1日平均(人)	備考(催事等)
4月	2,560	25	102.40	4月14日～6月28日
5月	1,595	25	63.80	「隔離の百年」プレ企画 写真パネル展 6月9日～28日
6月	1,687	26	64.88	合志由布子さんのペン画展「音のない町なみ」
7月	1,952	27	72.30	7月23日～12月20日 企画展「隔離の百年」
8月	1,542	26	59.31	
9月	1,666	26	64.08	
10月	2,012	26	77.38	
11月	2,635	24	109.79	9月27日 シンポジウム「隔離の記憶を掘る」
12月	1,568	22	71.27	
1月	1,162	24	48.42	1月21日 ハンセン病医療政策と資料保存シンポジウム
2月	1,818	23	79.04	1月31日～2月28日「桃生小富士展」
3月	1,684	27	62.37	
合計	21,881	301	72.69	

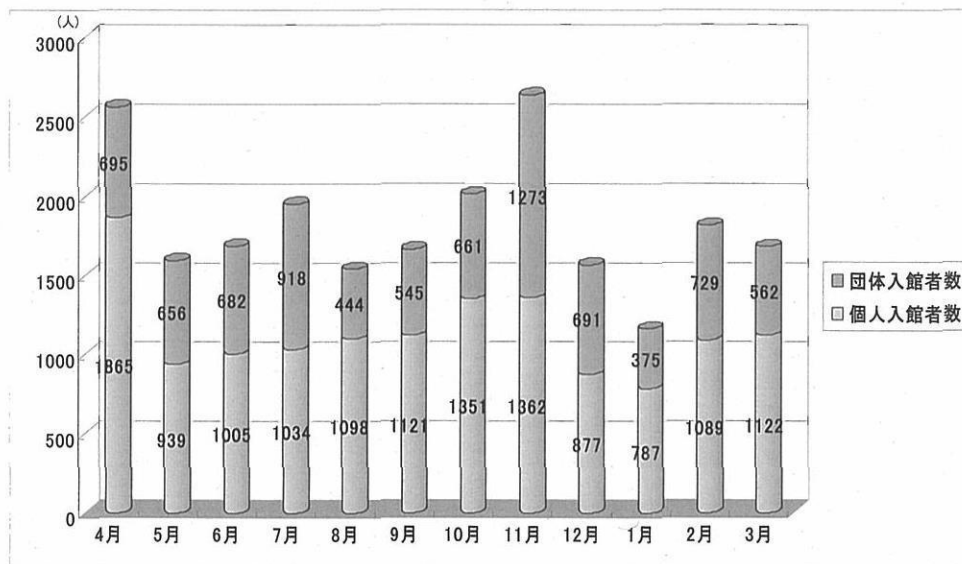
※1日平均入館者数は小数点3位以下で四捨五入

※昨年度比入館者数は年間計 1,163 人減

■内訳

月	個人来館者数	団体数	団体に来館者数	合計来館者数	開館日	1日平均(人)
4	1,865	15	695	2,560	25	102.40
5	939	14	656	1,595	25	63.80
6	1,005	23	682	1,687	26	64.88
7	1,034	22	918	1,952	27	72.30
8	1,098	16	444	1,542	26	59.31
9	1,121	17	545	1,666	26	64.08
10	1,351	21	661	2,012	26	77.38
11	1,362	38	1,273	2,635	24	109.79
12	877	19	691	1,568	22	71.27
1	787	9	375	1,162	24	48.42
2	1,089	20	729	1,818	23	79.04
3	1122	17	562	1684	27	62.37
計	13,650	231	8,231	21,881	301	72.69

■個人来館者／団体に来館者割合グラフ



利用のご案内

交通アクセス :

- ・西武池袋線清瀬駅南口より、久米川駅行きまたは所沢駅東口行きバスで約 10 分
- ・西武新宿線久米川駅北口より、清瀬駅南口行きバスで約 20 分
いずれもバス停留所「ハンセン病資料館」下車すぐ
- ・JR 新秋津駅、西武池袋線秋津駅より徒歩約 20 分
- ・関越自動車道 所沢 IC から約 30 分

開館時間 : 午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分 (入館は午後 4 時まで)

休館日 : 毎週月曜日 (祝日の場合は次の日)

年末年始・国民の祝日の翌日・館内整理日

入館料 : 無料



国立ハンセン病資料館 年報 第 3 号 平成 21 (2009) 年度

平成 22 (2010) 年 8 月 31 日 発行

編集・発行 国立ハンセン病資料館

〒189-0002 東京都東村山市青葉町 4-1-13

電話 042-396-2909 FAX 042-396-2981

URL ; <http://www.hansen-dis.jp>